

第4回災害支援訓練

実施報告書

広域リサイクル事業協同組合

第4回災害支援訓練実施報告書 広域リサイクル事業協同組合

日時：平成25年8月31日（土）8：00～12：00

場所：①集合場所…小田原市諏訪原（トレープラスチック減容施設横）

②派遣場所…豊川小学校、矢作小学校、曾我小学校、下曾我小学校、千代小学校、富士見小学校、酒匂小学校、国府津小学校、下府中小学校、下中小学校、前羽小学校

参加者：小田原市環境部3名、広域リサイクル事業協同組合34名

趣旨：大規模災害が発生した場合は、まず人命の救助やライフラインの確保、それに必要な主要道路など交通路（緊急輸送道路等）を確保する行動がとられる。その後、し尿処理やごみ処理といった災害収集業務の対応が求められる。災害収集に使用する車両は緊急通行車両として緊急輸送道路を走行できる。今回の訓練では緊急輸送道路を実際に走行して確認する訓練を行う。

また、大規模災害の場合は情報が錯綜し、事前に作業に十分な情報が得られないことも想定される。その場合、現場での判断及び現地の責任者等との連携が求められる。各広域避難所に配置される市の防災担当職員と連携し、作業に必要な情報を収集し、災害支援活動報告書により報告する訓練を行う。

さらに災害時は電話回線がつながりにくく、本部と現場の連絡は取りにくい事が想定されるが、非常用の連絡手段を確保する必要がある。今回は災害用伝言ダイヤルを試用する。

内容：平成25年8月31日（土）8時00分に発生した地震（震度7）の影響により、小田原市が被災し、市内の避難所設置による仮設トイレの汲取りと臨時ステーションのごみ収集、震災ごみ増加・道路事情悪化により家庭ごみの収集・運搬に支障をきたしているという想定のもと、災害収集を行う。

訓練概要：小田原市との連絡訓練、応援要請から参集訓練、避難所への派遣訓練までを行う。

主な使用機材：

バキューム車 6台

パッカー車 7台

トラック 2台

仮設トイレ 12基

仮設テント（3m×3m）1張

車両看板 19枚

机 1台

パイプ椅子 6脚

ブルゾン（責任者のみ） 5着

交通誘導灯 2個

音響設備（ポータブルワイヤレスアンプ1機、拡声器 1機）

白板 2枚

非常食セット 30個

腕章 3個

タイムテーブル

- 8 : 00 地震発生（小田原市総合防災訓練）
- 8 : 05 小田原市環境部からの応援要請受理。
- 8 : 10 組合事務局から組合員へ応援要請及び出動要請、小田原市へ応援体制を報告。
- 9 : 00 全派遣班、集合場所に到着（小田原市諏訪原 トレープラスチック減容施設横）
司会進行 浅田理事（防災・技術担当）
開会挨拶 浅田理事
参加者紹介
訓練行程説明
小田原市から応援要請の内容説明
・市内 11 箇所の広域避難所の設置とそれに伴う仮設トイレ汲取り、ごみ収集の需要が見込まれる
班編成（2 班体制とする。第 1 班を勝俣班長、第 2 班を齋藤班長が担当）
責任者会議（浅田統括、勝俣班長、齋藤班長、小田原衛生担当者）
班別ミーティング
・市内状況説明
・運行計画作成、作業指示
- 9 : 25 浅田統括より出動命令
- 10 : 00 作業チーム（主にバキューム、塵芥車の組）ごとに広域避難所へ移動。
～11 : 00 広域避難所の担当者に到着報告。指示を受ける。
作業に必要な情報を収集し、災害支援活動報告書を作成。
- 11 : 20 訓練終了式
関係機関挨拶 小田原市環境部 吉川副部長
主催者挨拶 鈴木理事長
- 12 : 10 訓練場所清掃、後片付け
解散

現地案内図

小田原市諏訪原地内



現地災害対策本部

訓練状況

開会



環境部と合流



班別ミーティング 1



訓練状況

班別ミーティング 2



豊川小学校



矢作小学校



訓練状況

曾我小学校



下曾我小学校



千代小学校



訓練状況

富士見小学校



酒匂小学校



国府津小学校



訓練状況

下府中小学校



下中小学校



前羽小学校



訓練状況

会場全景



会場全景 2



訓練終了式



神 静 民

21年5月1日第3種郵便物認可・特別承認新聞紙第87号

広域リサイ クル事業協 災害時の支援訓練

小田原市職員配置し円滑

広域リサイクル事業(町)はこのほど、同市 協同組合(鈴木理事 環境部と連携し、同市 長、事務局小田原市寿 内で災害支援訓練を突



広域遊難所の小学校グラウンドに到着した組合員ら

実施した。組合員ら4人が参加し、災害時に欠かせない避難所でのし尿処理など、組合が専門とする分野の支援体制を確認し合った。組合と市では、災害時の支援に関する協定を結んでいる。訓練は、小田原を震源とする震度7の大地震が発生したとの想定。組合では市環境事業センター(同市久野)の隣接地に災害対策本部を設置し、市からの応援要請を受け、組合員らに参集指令。午前9時ごろまでにバキューム車とパッカー車合わせて15台が到着した。広域遊難所でのごみ収集と仮設トイレ設置、し尿処理。災害時には、ライフラインの確保が重要課題。組合の車両は、災害時には緊急車両として緊急輸送道路の通行が認められる。今回の訓練でも同道路を走り、道中では地震に伴う危険個所の確認をシミュレーションした。組合員らは2班に分かれ、遊難所に指定されている市内の公立11小学校のグラウンドへ出発。各学校近くに住む市職員と連携し、事前に出入口を開けておいてもらうよう手配していた。現場に着くと、組合員らは仮設トイレの設置場所や数をシミュレーションし、くみ取りまでの手順を確認した。災害時には、グラウンドに車両(パッカー

4台)が入れるかどうかにも必要なポイント。学校によっては出入口が狭く、進入しづらいケースもある。また、有事に電話回線がつかない事態を見越して、NTPの災害用伝言ダイヤルの使い方を確認した上で、連絡訓練にも取り組んだ。応援の仕事を終え、

組合員らは午前11時ごろ対策本部へ帰着。各学校に市職員を配置したのが功を奏し、当初予定よりも早く進んだという。終了後、鈴木理事長は、訓練のスムーズな進行を喜び、活動の継続と充実化を組合員に呼びかけた。組合の特徴の広域性から、災害時の応援協定を結ぶ自治体を増やしていきたいと、願望を語った。同組合は真西部や湖南、奥央など広い範囲のリサイクル業者17社

で構成、現在は小田原、南足柄両市と災害協定を結んでいる。

「いざ」を見据えて

市と民間で防災訓練

小田原市内外の事業者による広域リサイクル事業協同組合（鈴木茂理事長）と小田原市の総合防災訓練が8月31日に開催された。組合は災害時の一般廃棄物収集に関する協定を小田原市と結んでおり、合同での訓練は2回目。



状況を確認

この日は組合加盟の14社34人が参加した。震度7の地震が発生した際は、車単独では不可能となった避難所のゴミ収集と、仮設トイレの汲み取りの対応を想定。参加者は環境事業センターに集合し状況を確認した後、市内に設置されている11カ所の広域避難所に向かった。今回は災害用伝言ダイヤルを初めて利用。現地から本部への定時報告も実施された。

鈴木理事長は「限られた時間の中で可能な限り実際の避難所を回り、経験を積み上げていきたい。現場での課題点を改善していければ」と話した。